

高等学校における旧制実業学校の校友会雑誌の所蔵状況 —高等学校における史料の保存と活用の一事例として—

市山 雅美*

The possession situation of the alumni magazines of the old system vocational schools
- the preservation and usage of historical documents in the high schools -

Masami ICHIYAMA

Abstract:

I performed questionnaire survey about the possession situation of the alumni magazines of the old system vocational schools in the successor high schools. 4 high schools possess all the alumni magazines, but 19 high schools possess none of alumni magazines. In comparison with old system junior high schools and old system girls schools, alumni magazines of the old system vocational schools are not often possessed by the high schools.

KEY WORDS: alumni magazine, vocational school, historical material, school archive

要旨:

旧制実業学校の校友会雑誌の、後身の高等学校での所蔵状況についてアンケート調査を行った。全て所蔵している学校が5校、所蔵なしが19件など、中学校や高等女学校に比べると実業学校の校友会雑誌は所蔵されている割合が低いことが明らかになった。

キーワード: 校友会雑誌、実業学校、史料、学校アーカイブズ

1. はじめに

本論文は、旧制実業学校の校友会雑誌が、後身の高等学校にどの程度所蔵されているかについての、アンケート調査の結果を中心に論じている。

校友会雑誌は、明治期より、旧制中等教育諸学校（中学校、高等女学校、実業学校）、高等学校、専門学校等で、1年に1回（あるいはそれ以上）定期的に刊行されていた雑誌で、そこには、生徒の書いた文芸作品、論説、部活動の記録などが掲載され、編集にも生徒が主体的に参加していた例もある。

校友会雑誌を発行していた校友会は、旧制中等教育諸学校の部活動等生徒の自主活動を担っていた組織で、校友会雑誌の発行も校友会の雑誌部や文芸部が行っていた。

校友会雑誌は、その学校の生徒や卒業生に配られ、また、他の学校に寄贈されたりしていた¹。

校友会雑誌は、公共図書館²や文学館・公文書館などに所蔵されていることもあるが、校友会雑誌を刊行していた学校の後身の高等学校で保存されている。それは、各学校の学校史で、校友会雑誌が史料

¹ 校友会雑誌の研究については、斉藤利彦・市山雅美「旧制中学校における校友会雑誌の研究」『東京大学教育学研究科紀要』48（2008）、「生徒の表現の場としての『校友会雑誌』—制約と可能性」『学校文化の史的探究—中等諸学校の『校友会雑誌』をてがかりとして』（東京大学出版会、2015年）を参照。

² 県立図書館等の校友会雑誌の所蔵状況は、市山雅美「『旧制中学校』所蔵一覧」、歌川光一、稲井智義「『高等女学校』所蔵一覧」、「『実業学校』所蔵一覧」『旧制中等諸学校の『校友会誌』にみる学校文化の諸相の研究と史料のデータベース化』（科研費研究成果報告書）（2011年）を参照。

*湘南工科大学 工学部 教職センター 准教授

として用いられているように、校友会雑誌はその学校の歴史の資料として、その学校の歴史を体現するものとして認識されている。

また、校友会雑誌の教育研究、教育史研究上の意義について、斉藤利彦は以下のように論じている³。

中央官庁およびそれに類する行政機関の文書あるいは諸記録・諸報告等の資料は重要であるが、そのみに依拠するだけでは、学校の日常性のレベルの資料としては不十分である。重視されるべきは、いわゆる「中央」の史料に加え、個々の学校現場の日々の営みに密着した史料であり、これらを用いて当時の学校文化を具体的に考察していくことである。

『校友会雑誌』には、日常的な学校の教育活動や、生徒や教員たちの様々な言説、運動や文化部の諸活動等の様子が豊富に記録されて掲載されている。したがって、それは学校の日常性の次元での学校文化の、具体的な表象とその貴重な史料となりうる

筆者らは、これまで、各高等学校における校友会雑誌の所蔵状況の調査を行ってきた。調査を開始した2008年ごろは、以下のような認識を共有していた。

史料の価値の高さにもかかわらず、この校友会雑誌を対象とした、あるいはそれを史料として用いた研究は、きわめて少なかった。それどころか、この校友会雑誌が、今日においてどの程度保存され、かつ有効に活用しているのかという、いわば史料論的な角度からの基礎的研究もまだ手付かずの状況にある。

その理由の一端として、校友会雑誌そのものが各中学校により所蔵状況がまちまちであり、所在をつかむこと自体が困難であること……などがあげられよう⁴。

このような認識のもと、旧制中学校および高等女学校の校友会雑誌の調査を行った。旧制中学校の校友会雑誌の所蔵状況は、斉藤利彦、市山雅美「旧制中学校における校友会雑誌の研究」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第48号（2008年）に、高等女学校の校友会雑誌の所蔵状況については、「全国アンケートによる各高等学校『校友会雑誌』所蔵一覧『旧制中等諸学校の『校友会誌』にみる学校文化の諸相の研究と史料のデータベース化』（科研費研究成果報

告書）（2011年）にある。

2. アンケートの実施

今回の調査の対象は、1930年までに設立された実業学校で、2013年7月26日に後身となる各高等学校の校長あてに発送した。

以下、アンケート用紙の内容を示す。

旧制実業学校『校友会雑誌』所蔵状況調査（文部科学省科研費プロジェクト）用紙 回答校（ <input type="text"/> 高等学校） 以下の質問に関しましてご回答いただきますようお願い申し上げます。 なお、勝手ながら8月31日までに、同封の返信用封筒にて、ご返送いただけますなら幸いです。 質問 1. 貴校におかれましては、戦前に『校友会誌』（『校友会雑誌』、『同窓会雑誌』等を含む）を発行されていましたか。 （はい いいえ 不明） *不明の場合でもその回答を返信用封筒にてご返送いただけますなら幸いです。 2. 発行されていた場合、その雑誌の名称はどのようなものでしたでしょうか。 3. 創刊の年度が明らかになっていましたら、お書きください。 4. 現在貴校におきまして、上記の雑誌を所蔵されていますか。以下の番号に○をお付けください。 i)すべての号を所蔵している。 ii)一部の号のみ所蔵している。 iii)全く所蔵していない。 （所蔵されている場合、その号の刊行年度と号数をお書きいただければ幸いです。） 5. 貴校以外で、貴校の『校友会誌』を所蔵されている場所をご存知でしたら、お書きください。 以上ご協力ありがとうございました。 お差し支えがなければ、回答者の方のお名前のご記入をいただけますなら幸いです。 お名前 [<input type="text"/>]

送付件数は506校、回答数240校（校名の記載なし1校含む）で、回収率は47%であった。

回答者の属性は記入のない場合もあったが、教員、資料室の担当者、学校図書館の担当者、同窓会の役員・職員などが見られた。

³ 斉藤利彦「学校文化の探求へ」『学校文化の史的探究—中等諸学校の『校友会雑誌』をてがかりとして』（東京大学出版会、2015年）。

⁴ 市山・斉藤前掲論文。

3. アンケートの結果

3.1. アンケートの結果の概要

以下、アンケートの結果を示す。「少し所蔵」、「かなり所蔵」、「ほとんど所蔵」については、筆者の方で判断して分類を行った。

表1 実業学校校友会雑誌発刊・所蔵状況概要

発刊・所蔵状況		校数
発刊していたか不明		118
発刊していない		38
発刊していた	所蔵なし	20
	少し所蔵	18
	かなり所蔵	17
	ほとんど所蔵	8
	全て所蔵	5
	一部所蔵・所蔵あり (詳しい所蔵状況は不明)	8
	調査中・所蔵状況不明	2
	小計	78
合計		240

表のレイアウトの都合上、先に「発刊していない」との回答のあった高校について挙げる。

表2 校友会雑誌を発刊していない実業学校

実業学校名	現在の校名 (高等学校は略)
北海道庁立空知農業学校	北海道岩見沢農業
青森県立八戸商業学校	青森県立八戸商業
岩手県立盛農業園芸学校	岩手県立大船渡
山形県立山形工業学校	山形県立山形工業
福島県立若松商業学校	福島県立若松商業
茨城県立小瀬農学校	茨城県立小瀬
茨城県立上郷農蚕学校	茨城県立石下紫峰
栃木県立鹿沼農商学校	栃木県立鹿沼農業
群馬県立館林農業学校	群馬県立大泉農業
埼玉県大宮工業学校	埼玉県立大宮工業
新潟県立三条商工学校	新潟県立新潟中央工業
富山県立芸学校	富山県立高岡工芸

南安曇農蚕学校	長野県梓川
愛知県新城農蚕学校	愛知県立新城
静岡県立静岡工業学校	静岡県立科学技術
静岡県立浜松工業学校	静岡県立浜松工業
静岡県立御殿場実業学校	静岡県立御殿場
静岡県立沼津農学校	静岡県立沼津城北
静岡県清水商業学校	静岡市立清水桜が丘
岐阜県斐太実業学校	岐阜県立飛騨高山
岐阜県益田農林学校	岐阜県立益田清風
三重県立松阪商業学校	三重県立松阪商業
滋賀県立彦根工業学校	滋賀県立彦根工業
北陽商業学校	関西大学北陽
大阪府福島商業学校	履正社
神戸市立第二神港商業学校	神戸市立摩耶兵庫
島根県立横田農林学校	島根県立横田
山口県立萩商業学校	山口県立萩商工
香川県立丸亀商業学校	香川県立丸亀城西
愛媛県立新居農業学校	愛媛県立新居浜工業
高知市立高知商業学校	高知市立高知商業
福岡県立糸島農学校	福岡県立糸島農業
福岡県田川農林学校	福岡県立田川科学技術
佐賀県立伊万里農林学校	佐賀県立伊万里農林
佐賀県立農学校	佐賀県立佐賀農業
長崎市立第二商業学校	長崎県立鳴滝
大分県立玖珠農学校	大分県立玖珠農業
宮崎県立富高実業学校	宮崎県立富島

次ページに続く。

3. 2. アンケート結果の詳細

表3 実業学校で発行されていた校友会雑誌の発行状況・所蔵状況

書名中、斜字は所蔵のない雑誌、ゴシック体は全て所蔵されている雑誌
 雑誌名については、高等女学校のものと思われるものもあった（戦後に、実業学校と高等女学校が統合され
 た高校がある）が、回答のあった雑誌名を全て挙げた。
 戦後に発行された雑誌についても回答しているものもあったが、旧制実業学校時代の雑誌のみを挙げた。
 雑誌名中（校）は校友会雑誌、（同）は同窓会雑誌を示している（アンケートの回答より判明しているもの
 のみ、また「同窓会誌」のように雑誌名から明らかなものは省略した）。

実業学校名	学校設 立年	現校名（高等学校は略）	所蔵状況	発行年	雑誌名	詳細な状況
北海道庁立永山農業学校	1907	北海道旭川農業	かなり	不明	校友会誌	9冊
北海道庁立小樽商業学校	1913	北海道小樽商業	所蔵なし	1938	専商	
北海道庁立工業学校	1921	北海道函館工業	一部所蔵	1922	会誌、校友会誌、赤誠、 同窓会誌	「抜けている号 有」
山形市立山形商業学校	1918	山形市立商業	全て	1921	輸誠会雑誌	20号まで発行
福島県郡山商工学校	1926	福島県立郡山商業	少し	1928年度	校友会会報	4冊
福島県平商業学校	1920	福島県立平商業学校	かなり	1930	校友会雑誌→学友	6冊(9号まで発行)
福島市立商業学校	1907	福島県立福島商業	一部所蔵	不明	学而	
福島県蚕業学校	1896	福島県立福島明成	かなり	未詳	同窓会報	12冊(明治・大正)
茨城県古河商業学校	1926	茨城県立古河第一	少し	不明	虎嘯、古河商学報	1冊
茨城県立湊商業学校	1901	茨城県立那珂湊	少し	1914	同窓会雑誌	1冊
栃木県立真岡農学校	1908	栃木県立真岡北陵	少し	1926	校友会雑誌	1冊
群馬県立中之条農業学校	1899	群馬県立中之条	ほとんど	1906	会報	28冊(1冊のみ欠)
埼玉県立熊谷農学校	1902	埼玉県立熊谷農業	所蔵なし	1905	会報、三農	
埼玉県立忍商業学校	1927	埼玉県立進修館	一部所蔵	不明	志のぶ草	
千葉県立山武農学校	1920	千葉県立大網	かなり	1927(会報)	会報、同窓会報	会報5冊、同窓会 報5冊
千葉県立銚子商業学校	1909	千葉県立銚子商業	所蔵なし?	1922	銚商	
府立職工学校	1901	東京都立墨田工業	調査中	未詳	月桂樹、実工〇〇*	
府立第一商業学校	1920	東京都立第一商業	ほとんど	1925	東光	14号中13冊

神奈川県立工業学校	1912	神奈川県立神奈川工業	所蔵有り	1925	神工時報、神工会報	所蔵状況未詳
新潟県立佐渡農学校	1912	新潟県立佐渡総合	かなり	大正時代	わかば、級乃友、友の情、 学びの友、農友、しらゆ り	
富山県農学校	1898	富山県立南砺福野	ほとんど	未詳	校友会報→校友会雑誌→ 会誌→報国会誌	22冊(28冊中5冊 欠)
石川県立工業学校	1887	石川県立工業	少し	1911年に第 16号発行	校友会誌	2冊
石川県立商業学校	1890	石川県立金沢商業	全て	1905	校友会誌	
山梨県立蚕業学校	1896	山梨県立笛吹	所蔵なし	明治30年代 か	校友会誌	
山梨県立谷村工学校	1896	山梨県立谷村工業	所蔵なし	不明	不明	
長野県小県蚕業学校	1891	長野県上田東	全て	1924	友誼	
長野県上伊那蚕業学校	1899	長野県上伊那農業	少し	未詳	(同) 会報	1冊
長野県甲種蚕業学校	1891	長野県長野商業	全て	1932	長商学報あさひ→長商学 報	
名古屋工業学校	1920	名古屋工業	少し	1926年度	名工学報	2冊
名古屋市立工芸学校	1917	名古屋市立工芸	所蔵状況不 明		工芸文庫	
東邦商業学校	1923	東邦	所蔵なし	不明	不明	短歌雑誌などは所 蔵
名古屋女子商業学校	1907	名古屋経済大学市邨	所蔵あり	1908	ジー・シー・エー、女子 商業	本部(高蔵高校) に所蔵
静岡県立池新田農学校	1919	静岡県立池新田	ほとんど	1926	校友会雑誌→校友会誌	11冊
静岡県立静岡商業学校	1899	静岡県立静岡商業	所蔵なし	不明	学友会誌	
静岡県立袋井商業学校	1923	静岡県立袋井商業	少し	1928	同窓会会報	2冊
静岡県立島田商業学校	1928	静岡県立島田商業	少し	1928	校友会誌、島商学報集	校友会誌は1冊
岐阜県第一工業学校	1924	岐阜県立岐阜工業	少し	不明	校友会誌	1冊
岐阜県第二工業学校	1926	岐阜県立大垣工業	所蔵なし	1929年度	(校)コウユウ→こうゆ う→工友→若森	
				1936年度	(同) 同窓会誌	

岐阜県立農林学校	1920	岐阜県立郡上	ほとんど	1932年に3号	積翠	17冊(26号中)
岐阜県揖斐実業学校	1919	岐阜県立揖斐	所蔵なし	不明(作興)、花すみれ(1926)	作興、花すみれ	
岐阜県大垣商業学校	1902	岐阜県立大垣商業	かなり	1906年には発行あり	校友会雑誌(ママ)→校友会誌、大商学報 大商同窓会誌→大商同窓会報	明治39~昭和5 大正7~昭和17
三重県立宇治山田商業学校	1908	三重県立宇治山田商業	所蔵なし	1915	同窓会々報	
津市立工芸学校	1917	三重県立津工業	所蔵なし	1920	校友会誌	
滋賀県立八幡商業学校**	1886	滋賀県立八幡商業	全て	1892	近江尚商會誌→近江商人	114号まで所蔵。
滋賀県立神崎農学校	1907	滋賀県立八日市	少し	昭和9年に第三号	同窓会誌	1冊
京都府立峰山工業学校	1922	京都府立峰山	所蔵なし	不明	(同) 葦城工業会誌	
京都府立木津農学校	1901	京都府立木津	所蔵なし	大正年間	不明	
京都府立宮津商業学校	1919	京都府立宮津	一部所蔵	不明	不明	
大阪府立都島工業学校	1907	大阪府立都島工業	少し	未詳	校友会誌、浪速工業時報、都窓	4冊
大阪府立西野田工業学校	1907	大阪府立西野田工科	かなり	1917?	校友会誌→会誌 大阪職工會会報→工学新潮(少なくとも217号まで発刊)	9冊 40冊
大阪府立農芸学校	1917	大阪府立農芸	かなり	1927	JARDINAGE → 大阪園芸	9冊(23号までのうち)
関西商工学校	1902	関西大倉	少し	1907	校友会誌	5冊(昭和期)
大阪大倉商業学校	1907		少し	1907	(校) 浪花津 (同) 如蘭会報(昭和期)	13冊 11冊
神戸市立神港商業学校	1907	神戸市立第一神港商業	所蔵なし	不明	不明	
神戸市立女子商業学校	1917					

第三神港商業学校	1923	神戸市立六甲アイランド	所蔵なし	不明	神港タイムズ	(高女同窓会誌は所蔵)
和歌山県立田辺商業学校	1916	和歌山県立田辺	かなり	1901年に3号発行	校友会誌→黒潮	28冊(明治・大正・昭和)
島根県立松江商業学校	1900	島根県立松江商業	かなり	未詳	校友会誌→翠ヶ丘→翠が丘	17冊(22号~37号のうち1号欠、大正・昭和)
岡山県笠岡商業学校	1902	岡山県立笠岡商業	所蔵なし	1923	吸江	
岡山県立勝間田農林学校	1879	岡山県立勝間田	所蔵なし	1889	樵蘇(樵蘇月報) 勝美会報	
岡山県津山商業学校	1920	岡山県立津山商業	一部所蔵	1924	自彙	
広島県立広島工業学校	1897	広島県立広島工業	かなり	1905	(校) 校友会誌	15冊(明治・大正・昭和)
広島県立加計実業学校	1928	広島県立加計	所蔵なし	1912	(同) 二葉の友	31冊
広島県立広島商業学校	1890	広島県立広島商業	少し	1933	せせらぎ	
盈進商業学校	1904	盈進	少し	不明	広商會報	4冊
下関市立下関商業学校	1886	下関商業	ほとんど	1912年ごろ	自成一誌・会誌→自成	5冊
山口県立防府商業学校	1928	山口県立防府商業	かなり	1902	千量原	84冊(1~9号、94,95,別冊欠)
徳島県徳島商業学校	1909	徳島県立徳島商業	所蔵なし	1932	鳳翔	13号までのうち、10冊
香川県立坂出商業学校	1914	香川県立坂出商業	かなり	不明	不明	
愛媛県立松山商業学校	1900	愛媛大学附属	かなり	1914	校友会誌、報国団誌	9冊
愛媛県立南宇和商業学校	1907	愛媛県立南宇和	一部所蔵	未詳	(同) 農本、同窓会雑誌、同窓会雑誌、松農同窓会報告	16冊
愛媛県立八幡浜商業学校	1901	愛媛県立八幡浜	かなり	1924年に3号	(校) 会誌、校友会誌、拓翠	
				未詳	南の光(校友会発行)、南の光(学校発行)	
				未詳	八商	25冊(昭和6年からは全て)

愛媛県立宇和農業高等学校	1908	愛媛県立宇和	少し	1914?	桜ヶ陵	2冊(高女の雑誌も少し所蔵)
高知県立農業学校	1890	高知県立高知農業	ほとんど	1926	高知農業同窓会報	
久留米市立久留米商業高等学校	1896	久留米市立久留米商業	かなり	1901	同窓会誌	第1号から第75号のうち、49冊
福岡県立福岡工業学校	1896	福岡県立福岡工業	かなり	1901(報告書)	(校)報告書→校友会会誌→校友会月報→工業→校友会会報、濤聲(同)福岡校支会会報、福商工友会会報	7冊(「工業」、「校友会会報」) 福商時報、福商工業新聞なども所蔵
佐賀県立佐賀工業学校	1898	佐賀県立佐賀工業	所蔵なし	不明	不明	
長崎県立商業学校	1924	長崎県立佐世保商業	少し	1928	同窓会誌	2冊
熊本県立熊本工業学校	1898	熊本県立熊本工業	かなり	不明(第3号が1908年)	校友会誌(明治～昭和)、校友会報(昭和)、熊工友会誌	第39号まで19冊(校友会誌)
熊本県立球磨農業学校	1903	熊本県立南後	所蔵あり	不明	不明	
大分県立工業学校	1902	大分県立大分工業	少し	1909	豊工会誌、校友会誌(FAME)(大正)、学友会誌(大正?～昭和)	計4冊
大分県立臼杵商業学校	1911	大分県立臼杵商業	ほとんど	1912	(校)白商→自彊(同?)北斗星	19冊(6号から22号まで欠なし) 9冊(8号～16号まで欠なし)

*アンケートの回答そのままを記載。

**アンケート実施前に調査を行っており、全て所蔵されていることを確認している。

表4 中学校・高等女学校・実業学校の校友会雑誌の所蔵状況の比較 (高等学校の数)

	中学校	高等女学校	実業学校
全て所蔵	38	41	4
ほとんど	49	55	8
かなり	55	58	18
少し	45	46	18
所蔵あり*	—	15	9
所蔵なし	32	48	19
未詳	—	6	2
総計	219	269	78

(*詳細な所蔵状況が明確でないもの)

中学校、高等女学校に比べると、実業学校の校友会雑誌の所蔵状況は良好であるとはいえない結果となった。

4. 校友会雑誌刊行状況の分析

表5 実業学校の種別ごとの校友会雑誌の刊行状況 (学校数の実数および%)

刊行の有無	有	無	総計
種別			
農業	23(55%)	19(45%)	42(100%)
工業	17(74%)	6(26%)	23(100%)
商業	40(78%)	11(22%)	51(100%)
その他	2(40%)	3(60%)	5(100%)
全体*	81(68%)	39(32%)	121(100%)

*学校の統合などにより、表1の数値とは、ずれが生じている。

農業＝農学校、農林学校、農蚕学校
 工業＝工業学校、工芸学校、職工学校
 商業＝商業学校
 その他＝商工学校、実業学校

農学校は若干校友会雑誌を「刊行していた」割合が低い。

表6 実業学校の設立年ごとの校友会雑誌の刊行状況 (学校数の実数および%)

刊行の有無	有	無	総計
種別			
1880年代以前	4(80%)	1(20%)	5(100%)

1890年代	17(89%)	2(11%)	19(100%)
1900年代	27(77%)	8(23%)	35(100%)
1910年代	12(44%)	15(56%)	27(100%)
1920年代	22(44%)	13(37%)	35(100%)
全体	82(68%)	39(32%)	121(100%)

*学校の統合などにより、表1の数値とは、ずれが生じている

設立年が古い学校には校友会雑誌を刊行していた傾向が強くみられる。

5. 書誌的事項の分析

5.1. 雑誌名

校友会雑誌の雑誌名については、中学校・高等女学校の雑誌名の分析をもとに、

- ①校友会の名称にちなむもの
- ②学校の名称によるもの
- ③学校の所在地の地名にちなむもの
- ④地域の自然によるもの
- ⑤地域の故事や文物によるもの
- ⑥人間形成などの理念によるもの

のように分類できる⁵⁾。以下、実業学校の校友会雑誌から例を挙げる。

- ①輸誠会雑誌 (山形市立商業学校)
- ②銚商 (銚子商業学校)
- ③浪花津 (大倉商業)
- ④黒潮 (田辺商業)
- ⑤吸江 (笠岡商業) 一古城山の別名より
- ⑥自彊 (津山商業、白杵商業)

実業学校の校友会雑誌の名称は、それに加え、学校の専門分野の独自性を示す名称がある(農学校であれば農業に関する名称など)。

- 樵蘇 (勝間田農林学校)
 拓翠 (松山農学校)
 JARDINAGE (大阪府立農芸学校)
 以桑 (福島県立蚕業学校)
 三農 (「三農九穀を生ず」『周礼』)(熊谷農学校)
 近江商人 (八幡商業学校) (⑤にも分類される)
 これは実業学校の校友会雑誌にしか見られない特徴だが、その数は多くない。むしろ①に分類されるも

⁵⁾ 市山雅美『『校友会雑誌』(中学校・高等女学校)の書誌的分析』『旧制中等諸学校の『校友会誌』にみる学校文化の諸相の研究と史料のデータベース化』(科研費研究成果報告書)(2011年)。

のが多い。

5.2. 創刊年

創刊年が明確に判明しているのは 46 校である。それらについて、学校の創設から何年後に校友会雑誌が創刊されたのかについて示す。

表 7 学校創立年と創刊年の関係

学校創立から何年後に校友会雑誌が刊行されたか	学校数
0～1 年後	6
2～5 年後	14
5～10 年後	20
11 年以上後	16
総計	46

中学校では、すでに明治期には、校友会雑誌を刊行するのがかなり一般的ではあったが、実業学校については、刊行しなかった学校も多く、刊行した学校でも、学校創立後かなり経ってから刊行される事例が多かった。そのため、実業学校では必ずしも校友会雑誌を刊行するというのが一般的ではなかったと考えられる。

なお、今回の調査で実業学校の最も刊行が古い校友会雑誌は、岡山県立勝間田農学校の『樵蘇』（1989 年創刊）で、中学校・高等女学校の最初期の刊行の事例——鎮西中学校の『文叢』（1889 年）や京都府立高等女学校の『鴨沂会報』（1887 年）とほぼ同じ時期に創刊されている。

6. 高校における校友会雑誌の保存の状況

高校における校友会雑誌の保存状況について、以前筆者らが同様のアンケートを行った、旧制中学校、高等女学校の調査の内容も含めて⁶、論じていく。

アンケートでは、特に自由記述の欄は設けていないが、資料の所蔵状況や散逸状況について記入している例もいくつか見られた。

⁶ 旧制中学校校友会雑誌の調査は、科学研究費補助金・基盤研究 (C)、「旧制中学校校友会雑誌の調査は、戦前期の『校友会雑誌』にみる文芸活動と学校文化に関する調査と総合的研究」(課題番号: 18520128)、高等女学校校友会雑誌の調査は、科学研究費補助金・基盤研究 (B) (平成 21 年度～25 年度)「旧制中等諸学校の『校友会誌』にみる学校文化の諸相の研究と史料のデータベース化」(課題番号: 21330182)の一環として行われた。

まず、戦災のため、あるいは戦災以外の火災、水害で失われた・散逸したという回答がかなり見られた。その中でも戦災が多かった。また、また、校舎の移転や改築で紛失・散逸したという回答が2件、また、統合があった高校で、前身校の所蔵状況について不明という回答が1件見られた。

学校統廃合や耐震補強のための校舎改築で、学校所蔵資料の廃棄や散逸が進んだことが指摘されている⁷。校友会雑誌は廃棄されることはないとは思われるが、それでも散逸の危険から免れないといえる。

また、「敗戦にて処分命令（戦争関連の記事があったため）によりトラックでゴミとして出してしまったのですが、印刷所にスペアに残っていたものから後に複製版として出版されたそうです。」との回答も見られた⁸。

高校に校友会雑誌の所蔵がなかった場合、学校史作成の際に、校友会雑誌を持っている卒業生が寄贈したり、卒業生に借りてコピーを保存したりといった例もある。中には古書店で購入したという例も1件ある。これらは、高校が、現有する史料を保存するだけでなく、必要に応じ史料の収集の役割も果たしているということを示している。

学校史・記念誌に校友会雑誌についての記述や写真があっても、学校では所蔵していない、という回答がいくつか見られた。「六十年史には発行されていたことが記載されていたが、個人所有でした」との回答があり、学校史作成の時に借りてその後、元の持ち主に返却したのではないかと思われる。

続いて、校友会雑誌の保存形態について論じたい。学校によっては、資料館や記念館が整備され、資料目録を作成し、アンケートの回答にそのコピーが添付されている高校もかなりの数見られた。

一方で、保存していても整理や管理が難しい例も

⁷ 田村達也「小学校資料論—かつて小学校は地域のセンターであったという視点から」『鳥取県立公文書館研究紀要』1 (2005 年)、山本幸俊「学校統廃合と学校アーカイブズの保存—新潟県の事例を中心に—」『記録と史料』22 (2012 年)。

⁸ 1945 年 8 月 18 日の長野県の通達「機密重要書類焼却ノ件」では、学校にも焼却の指示がなされていた（他県でも同様の措置があったのではないかとと思われる）。校友会雑誌は機密書類ではないが、それと関係があると思われる。前田一男は、「戦時中の学校日誌は、学校関係者が GHQ に戦争責任を問われていることを恐れ、多くが破棄された。」と述べている。（「戦争に翻弄された児童」『毎日新聞』2015 年 12 月 19 日付）。

ある。校友会雑誌が保存されている場所が「何年も開かずの間状態です」、「資料館の倉庫に保管されており、主要な号のみ展示されているため、全ての号がそろっているかは不明」、「展示ケースの鍵が見つからず、年度等不明」、「1号から所蔵していますが、禁帯出となっております、確認できません（施錠・保管のため）」のように、資料を保存していても、それを活用するのが難しいと思われる例もある。また、「大量の書物があり、すべてを確認するのは不可能でした」というように、保存はされていても整理までは難しい例も見られる。

学校での資料の保存や整理を教員が担う場合、教員は日々の教育実践や事務作業に努めながらとなり、十分に時間や労力をかけるのは難しい。それを行っているのは、個々の教員の熱意に支えられている。

大藤修は、「学校は一般に史料にとって保存上安全な場所とは言えない」という指摘⁹に基づいて、「学校で作成された文書記録を、それが現用価値を喪失したのちも史料として系統的に保存していくためには、各自治体に文書館を設立して、現用期限が切れた段階でそこに移管して保存措置を講ずる必要がある」と論じている¹⁰。

しかし、散逸の可能性がない限り、各学校で資料を保管することには意義がある。地域資料は「現地で保存」するだけでなく、「現地で整理」し、「現地で利用」することによってできるだけ、当該の地域住民が関わっていくという「現地主義」が提唱されている¹¹。同じように、学校資料を、「学校で保存」し「学校で整理」し、「学校で利用」することに、その学校の教員や生徒が関わっていくことに、意義があると思われる。

近年、学校アーカイブズが提唱されており、その必要性の一つに、「学校に在籍する児童生徒……の学校……への理解を深め、誇りと愛着の形成に資するため」というのが挙げられている¹²。

実際に、校友会雑誌を学校として活用している例として、「図書委員会や郷土研究部で戦前の校友会誌を生徒とともに読み進め、文化祭などで、その珠玉の文章を選び出し、先輩の文に対する感想を添えて展示したりしています。」という実践を行っているという回答もある。

校友会雑誌をはじめとするその学校の史料を、その学校の教育実践に生かしていくことが、史料の保存、さらに収集につながっていくと思われる。

謝辞

アンケートに回答いただいた、教職員ならびに同窓会等学校関係者の方に、改めてお礼を申し上げます。

本報告は、科学研究費補助金・基盤研究(B)(平成25年度～27年度)「旧制中等学校におけるスポーツの成立と学校運動部の展開に関する全国的調査と研究」(課題番号:25282196)の一環として行われた。

⁹ 中村一雄「県教育史編集雑感」『日本教育史往来』14(1983年)。

¹⁰ 大藤修「学校資料の保存と大学文書館」大藤修・安藤正人『史料保存と文書館学』(吉川弘文館、1986年)。

¹¹ 越佐歴史資料調査会の方針とされているものを挙げた。長谷川伸「地域資料の「保存」と「利用・活用」を考える」『法政史学』58(2002年)。

¹² 学校・施設アーカイブズ研究会『学校・施設アーカイブズ入門』(大空社、2015年)。ここでいう「施設」とは、福祉施設を指している。